

第65期

事業報告書

令和5年（2023年）度

自 2023年4月1日

至 2024年3月31日

公益財団法人 中外創薬科学財団

# 第 65 期令和 5 年(2023 年)度 公益財団法人 中外創薬科学財団事業報告書

## I. 事業概要

令和 5 年(2023 年)度は、定款第 3 条及び定款第 5 条に定めた記載に則り、事業計画の策定を行い実施した。令和 2 年(2020 年)にはじまったコロナ禍により、昨年度までは本財団法人の事業活動はかなり制限を受け、特に国際交流研究助成事業、海外留学助成事業、海外招聘・派遣補助事業、国際がんフォーラム事業等の国際関係の事業は縮小せざるを得ない状況であった。しかしながら、今年度は新型コロナウイルスが 5 類感染症の位置づけとなり、計画された全ての事業を予定通りに実施する事ができた。

褒賞事業は、第 2 回石館・上野賞の受賞者、第 13 回 JCA-永山賞の受賞グループを決定し、「石館・上野賞」「JCA-永山賞」合同にて授賞式及び受賞記念講演会を対面にて開催できた。

助成事業は、令和 5 年(2023 年)度より女性研究者の活躍を推進する目的で開始した特別研究助成金 SRG2023 にも多数の申請があった。学術研究助成金全般として応募件数が大きく増加した前年度に比べ、応募件数が更に増加し、506 件(506/447 前年度 113%)の申請があった。他の助成と合わせ支払い助成金総額として、87 件に対し 189,692 千円を贈呈した。

フォーラム事業は、フォーラム事業の中核事業である国際がんフォーラム IAAO 2023 を 4 年ぶりに対面にて実施でき、本来の目的である国際交流・討議の場として開催できた。また、オンコロジーサテライトフォーラム 1 件の開催、助成研究報告会も口頭発表 19 題、ポスター発表 26 題にて対面開催でき、活発なディスカッションが行なわれた。

## 1. 令和 5 年(2023 年)度事業内容

### 1) 褒賞事業

#### ① 石館・上野賞(定款第 5 条第 1 項第 1 号)

生命科学研究・創薬科学研究或いは臨床研究において独創的発見・発明を行い、かつそれを基盤として将来も画期的成果をあげる事が期待される若手研究者 1 名の表彰を行う石館・上野賞は、令和 5 年(2023 年)度第 2 回として岡田 随象先生(国立研究開発法人理化学研究所 生命医科学研究センター システム遺伝学チーム チームリーダー)の研究テーマ「遺伝統計学による疾患病態解明・ゲノム創薬・個別化医療への挑戦」に授与された。なお、授賞式及び受賞記念講演会は 11 月 27 日に東京ステーションホテルにて JCA-永山賞と合同で開催した。

賞状の他に副賞として 500 万円及びトロフィーが授与された。

#### ② JCA-永山賞(定款第 5 条第 1 項第 1 号)

本賞は、本財団と日本癌学会が共同で 2010 年に創設された日本癌学会学術賞の一つである。「日本発の新たな抗がん剤・治療法に関する研究・開発を行い、がん医療の発展に多大に貢献する成果物を創出した個人又はグループに対してその功績を称え、今後のがん研究の一層の振興を図る」ことを目的に表彰を行っている。令和 5 年(2023 年)度第 13 回 JCA-永山賞は、山本 昇先生(国立がん研究センター 中央病院 先端医療科 科長)のグループの研究テーマ「NCC オンコパネルの医療実装によるがんゲノム医療の始動」に授与された。授賞式は 9 月 23 日にパシフィコ横浜で開催された第 82 回日本癌学会学術総会にて行われ、受賞記念講演会は 11 月 27 日に東京ステーションホテル

ルにおいて石館・上野賞と合同で開催した。

賞状の他に副賞として200万円及びトロフィーが授与された。  
他の受賞メンバーは以下の通り

河野 隆志 先生 国立がん研究センター 研究所  
ゲノム生物学研究分野・先端医療開発センター ゲノム TR 分野 分野長

田村 研治 先生 島根大学医学部附属病院 腫瘍内科 教授

市川 仁 先生 国立がん研究センター研究所 臨床ゲノム解析部門 研究員

加藤 護 先生 国立がん研究センター研究所 生物情報学分野 分野長

角南 久仁子先生 国立がん研究センター中央病院 臨床検査科 医員

中島 哲 様 積水メディカル株式会社ラボクリエイティブグループ  
QMS コンサルタント

落合 淳志 先生 東京理科大学生命医科学研究所/国立がん研究センター 所長/参与

渡辺 玲子 様 シスメックス株式会社 臨床戦略本部 本部長

鷲尾 尊規 様 株式会社理研ジェネシス バイオインフォマティクス部 部長

## 2) 助成事業

### ① 研究助成金 I (定款第5条第1項第2号)

創薬並びに生命科学に関する基礎あるいは応用研究に関して、注目すべき革新的業績をあげている研究者に対し、以下の4つの応募区分の研究テーマより募集を行った。令和5年(2023年)度は、採択された受領者初年度分として10件、令和4年(2022年)度受領者次年度分として10件に贈呈した。

- (i) 化学あるいは物理学を基盤とした創薬及び創薬関連研究
- (ii) 生物学あるいは基礎医学を基盤とした基礎及び応用研究
- (iii) 臨床医学を基盤とした研究
- (iv) がんに関する基礎及び応用研究

[助成金額] 総額40,000千円 (1件4,000千円を2回分割交付)

令和5年(2023年)度受領者 初年度20,000千円(1件2,000千円を10件)、  
令和4年(2022年)度受領者 次年度20,000千円(1件2,000千円を10件\*)。  
\*2件分は所属先変更により令和6年4月以降に交付の為、未払い計上。

### ② 研究助成金 II (定款第5条第1項第2号)

創薬並びに生命科学に関する基礎あるいは応用研究において、画期的成果をあげておりさらに意欲的に研究に取り組む研究者に対し、研究助成金 I で定めた応募区分の研究テーマに対し募集を行った。原則40歳以下の若手研究者から18件を採択し受領者としたが1件辞退のため17件に贈呈した。

[助成金額] 総額25,500千円(1件1,500千円を17件)

### ③ 特別研究助成金 SRG2022 (定款第5条第1項第2号)

「申請時点から遡って2年以内に独立して新たに研究室を立ち上げた研究者、あるいは近い将来立ち上げることが確約されている研究者」の公募用件に対して申請してきた研究者の中から採択された受領者7件に贈呈した。なお、助成金の14,000千円については特定費用準備資金より拠出した。

[助成金額] 総額14,000千円(1件2,000千円を7件)

④ 特別研究助成金 SRG2023（定款第5条第1項第2号）

令和5年(2023年)度より女性研究者の活躍を推進する目的で「日本国内の大学及び研究機関で、創薬並びに生命科学に関する基礎あるいは応用研究において、独創的かつ先進的研究テーマに取り組んでいる45歳以下の女性研究者で、申請時点でPrincipal Investigator (PI) ではない研究者」の応募要件に対して申請してきた研究者の中から採択された受領者4件に贈呈した。なお、助成金の6,000千円については特定費用準備資金より拠出した。

[助成金額] 総額6,000千円（1件1,500千円を4件）

⑤ アジア地域招聘国際共同研究助成金

わが国とアジア地域の研究者による薬物治療並びに新医薬品の創製に関する共同研究を助成する事を目的とした事業で、アジア地域より若い研究者をわが国の大学・研究機関に招聘し、1~2年間の滞在費その他を支給するとともに、受入研究者に研究助成金を贈呈する。令和3年(2021年)度までに受領者として採択された7件に助成金を贈呈した。

[助成金額] 総額31,212千円 7件（継続7件:滞在費、共同研究助成金）

[助成金内訳]

- イ) 招聘研究者：滞在費月額320千円（住宅手当含む）、往復航空券（実費）、渡日一時金200千円、家族手当50千円、海外旅行保険料年額約200千円等
- ロ) 受入研究者：共同研究助成金 1,500千円(年額)

⑥ 国際交流研究助成金：（定款第5条第1項第3号）

日本と諸外国の若手研究者による創薬並びに生命科学に関する共同研究を助成する事を目的として、諸外国より若手研究者を日本の大学・研究機関に招聘し、最長2年間の滞在費(320千円/月)及び渡航費用を贈呈するとともに、受入研究者に研究助成金(年間1,500千円)を贈呈する。令和5年(2023年)度は令和4年(2022年)度に採択された受領者4件に贈呈した。

[助成金額] 総額19,723千円 4件（滞在費、研究助成金）

[助成金内訳]

- イ) 招聘研究者：滞在費月額320千円（住宅手当含む）、往復航空券（実費）、渡日一時金200千円
- ロ) 受入研究者：共同研究助成金 1,500千円(年額)

⑦ 海外留学助成金（定款第5条第1項第4号）

日本の若い研究者に対し海外で創薬並びに生命科学に関する研究を行い、研究のグローバル化を促進する目的で、海外留学における滞在費及び渡航費用の補助として、1年以上の海外留学予定者に対し最長2年間を限度に助成する事業である。この海外留学助成金の募集を2回(1期、2期)行った。令和5年(2023年)度は、採択された受領者初年度分として4件と令和4年(2022年)度の受領者次年度分として4件に贈呈した。

[助成金額] 総額36,296千円（令和5年(2023年)度受領者の初年度のうち2件分及び渡航費1件分を交付。2件は令和6年8及び9月に交付のため未払い計上。令和4年(2022年)度受領者の次年度の4件分を交付。留学開始の遅れにより来年度に交付する分を未払い計上）

⑧ 海外派遣補助金（定款第5条第1項第5号）

海外で開催される創薬並びに生命科学に関する国際会議への研究者の派遣に関して、渡航費及び滞在費などの経費を補助する募集を行った。令和5年(2023年)度は1件の申請があったが、応募資格を満たしていなかったため受理できなかった。

⑨ 海外招聘補助金（定款第5条第1項第5号）

日本国内で開催される創薬並びに生命科学に関する国際会議への研究者の招聘に関して、旅費及び滞在費等の経費を補助する募集を前半期、後半期の年2回に分けて行った。令和5年(2023年)度は、前・後半期併せて受領者6件に贈呈した。

[助成金額] 総額2,000千円

⑩ 学術団体への海外招聘補助金（定款第5条第1項第5号）

日本癌学会学術総会並びに日本臨床腫瘍学会学術集会は、日本が、がん研究・がん治療の拠点になることを目的に、将来が期待される諸外国の若手研究者を対象に学会への参加、研究成果の発表を促進する支援事業(トラベルグラント、トラベルアワード)を行っており、これらの事業に対し助成を行った。

[助成金額] 総額 3,750 千円(日本癌学会 2,250 千円、日本臨床腫瘍学会 1,500 千円)

[助成学術集会概要]

イ) 第82回日本癌学会学術総会：2023年9月21日 - 9月23日(パシフィコ横浜)

ロ) 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会：2024年2月22 - 24日(名古屋国際会議場)

⑪ 奨学金（定款第5条第1項第6号）

若手研究者の育成を目的に、日本の大学等研究機関において、創薬並びに生命科学に関する研究に真摯に取り組む大学院生若しくは大学院研究生を対象に奨学金を給付する事業である。令和5年(2023年)度は、受領者10件から1件辞退があり、9件に贈呈を行った。更に給付開始3か月後に1件辞退があった。

[助成金額] 総額 6,930 千円 (9件\*、月額 70 千円、年額 840 千円) \*1件3か月後に辞退

⑫ 臨床腫瘍学教育プログラム派遣（定款第5条第1項第8号）

国内のがん領域の原則40歳以下の若手の基礎研究者、臨床研究者及びがん専門医を米国で開催される臨床腫瘍学教育プログラム(STOFF)に派遣し、臨床腫瘍学の最新情報の習得並びに国際的なネットワーク作りの機会を提供する事を目的とした事業である。受講料(10,000米ドル/件)及び往復の渡航費を財団が負担する。令和5年(2023年)度は3名を採択・派遣した。

[助成金額] 総額 5,518 千円 (3名、受講料及び往復の旅費)

3) フォーラム事業

① 国際がんフォーラム IAAO 2023（定款第5条第1項第7号）

日本のがん研究、がん治療の向上を目的にがん研究領域の国内外の世界トップレベルの研究者・オピニオンリーダーを講演者として招聘し、国際がんフォーラムを日本にて開催しており、令和5年(2023年)度は演者13名並びに一般聴講者として日本の最先端のがん研究・治療を担う基礎研究者及びがん専門医173名、公募により選定された40歳以下の若手研究者9名を加え、総数約260名の参加者のもとにIAAO 2023を開催した。開催形式は、本来の目的である対面での交流に基づいた集合形式にて行った。

[開催費用] 総額 77,642 千円

## ② オンコロジーサテライトフォーラム（旧フォーカスシンポジウム）の開催

（定款第5条第1項第7号）

地方大学、大学病院、がん診療拠点病院、研究所などにおける、がんの基礎・臨床研究の向上、さらには地方での標準治療の普及促進を目的に、世界の最新のがん研究・治療にフォーカスした講演会の開催並びに講師派遣等の支援を行う事業である。

令和5年(2023年)度のオンコロジーサテライトフォーラムは、Cancer Expert Forum in Chicagoとして、6月3日に米国シカゴにて開催。演者3名とASCO参加者から研究者26名の参加があり活発なディスカッションが行われた。

[開催費用] 総額9,385千円

## ③ 助成研究報告会の開催（定款第5条第1項第7号）

研究助成金、特別研究助成金、国際交流研究助成金のそれぞれの受領者による成果発表を行い、研究者同士並びに財団関係者間の交流・親睦を図っており、令和5年(2023年)度は令和6年(2024年)3月1日に野村コンファレンスプラザにて口頭発表19題、ポスター発表26題にて開催。一般聴講者を含めて79名の参加があり、活発な質疑応答が行われた。

[開催費用] 総額5,385千円

## 4) 教育資材・資料の刊行

### ① 抗腫瘍薬一覧表・ポケット版の刊行

出版社廃業により作成の継続ができなくなり、2023年度以降は刊行していない。2022年度版の在庫がなくなり次第、提供を終了する。

### ② IAAO 2022 記録集の刊行

国際がんフォーラム2022の記録集(Proceedings of IAAO 2022)を9月に刊行し、IAAO 2022及びIAAO 2023参加者並びに希望者に無償提供を行った。

### ③ 助成研究報告集の刊行

令和4年(2022年)度版の助成研究報告集を刊行し、助成研究報告者、本財団理事・評議員・選考委員、他の公益財団などに無償提供を行った。

### ④ 活動報告集の刊行

令和4年(2022年)度に行った全ての公益事業の内容や成果について活動報告としてまとめ、「中外創薬科学財団 活動報告集」として10月に刊行し、研究機関、本財団理事・評議員・選考委員、他公益財団などに無償提供を行った。

## 2. 事業報告付属明細書

令和5年(2023年)度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する状様な事項」に該当するものがないので作成しない。